

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年1月24日(金) 10:00~12:00
- 3 開催場所 可児工業高等学校 同窓会館
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者 委 員 大杉 守平 中恵土自治連合会会長
古山 友生 可児市立図書館長
山内 糧子 元本校PTA役員
村瀬 由香 元本校PTA役員
各務 眞弓 NPO法人可児市国際交流会協会事務局長
日比野 光伸 本校同窓会役員
高野 眞弓 本校PTA副会長

学 校 側 中西 竜也 校長
松井 さおり 事務長
青山 知喜 教頭
熊崎 俊介 教務主任
三輪 武 生徒指導主事
林 貴康 進路指導主事
宮田 忠夫 工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) スクール・ミッションの策定

意見1：最終案は、第2回学校運営協議会において承認されたスクール・ミッション(案)から文言が一部変更されているが、それはなぜか。

⇒県の担当部署の方で、県内の高校で、ある程度文言を合わせるような措置がとられたものと思われる。

その結果、最終案の内容から変更の必要はないと参加委員全員から承認を得た。

(2) 授業参観の感想

意見1：化学技術工学科、建設工学科の課題研究発表会を参観し、生徒が自主的に取り組んでいる姿が見られた。資料作成やプレゼンテーションの能力は社会に出た時に必要になるものであり、高校からこのようなことが学べることはよい。

意見2：課題研究発表会は、昨年度までの発表に比べてレベルが上がっており、見応え、聞き応えがあった。

意見3：発表に工夫が見られ、内容について興味をもって聞くことができた。

意見4：時間の関係で一部の発表しか聞けず、残念だった。できれば全ての発表を聞きたかった。

意見5：発表する姿勢がすばらしかった。このような機会はぜひ継続してほしい。

(3) 本校に対する意見・提言

意見1：企業や地域との連携事業に力を入れて取り組んでいるとのことだが、ワークショップやイベントへの参加などは、より効果的な取組みにするためには土日実施となる一方で、職員の働き方改革の問題もあり、学校側がジレンマを抱えていることが理解できた。夏休みなど長期休暇での実施や、職員の勤務体制や代休、振替休日などで対応できないか。

意見2：イベント参加費用の補助が少なく、材料費の確保に苦慮しているとのことだが、ものづくり体験で製作してもらった作品も非常にしっかりしており、少額の体験料を徴収してはどうか。また、企業から端材などを譲り受けるなどしてはどうか。

意見3：今年度よりInstagramによる配信を始めたとのことだが、実際に見てみると、どこに向けて発信しているのかが分かりづらい。日常の高校生活が明確になる内容、中学生にとって興味ある内容の発信を心がけるべきではないか。

意見4：Instagramの登録者数増加に向けて、フリーペーパーを置いてもらえる近くの店舗やコンビニエンスストア等の協力を得てはどうか。

意見5：地元企業に出向いて行う連携事業がよい。企業の安全道場への参加は、生徒のみならず、多くの職員も受講し、安全教育に対する意識を向上させてはどうか。

意見6：生徒の満足度アンケートの結果で、学校行事に不満を抱えている生徒が33%と非常に多いが、その理由は何か。

⇒今年度のアンケートは現在集計中。今回示した資料は昨年度のデータであり、おそらく学校行事をコロナ前の状況へ徐々に戻している段階にあったことが原因の一つと思われる。今年度については、コロナ前の状況までほぼ戻っており、そこまで否定的な結果にはならないのではないと思われる。

意見7：本校の3年後の離職率は全国平均と比較してもかなり低く、高い定着率を誇っている一方で、転職ブームのような今の情勢に対して、ものづくりに関わる者として危機感を抱いている。工業高校も今後、時代に合った学科を新たに作っていくことも考えていかないといけないのではないか。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会では、全委員より来年度以降のスクール・ミッションについて承認が得られた。

- ・ 県指定の「地域産業の担い手育成総合戦略事業」の一環として、地元企業や地域との連携事業に数多く取組み、生徒のより深い学びを実践することができた。その一方で、予算や職員の働き方改革など、様々な問題も浮き彫りになり、その解決に向けた様々な提言や助言を得た。それをもとに、今後も地元産業の発展や地域の活性化に貢献する人材の育成に努めていきたい。
- ・ 工業教育を担う学校として、安全に対する意識は、生徒、職員が一丸となって高めていく必要があるといった提言があった。整理整頓はもちろん、小さなミスや怪我を決して見逃さない姿勢を大切に、安全第一の教育をさらに推進していきたい。